

美術館からのお願い



大切に見よう

作品やケースは
さわらない



ゆっくり歩こう

ぶつかると
きけん



小さな声で

静かに見たい人
のために



メモは鉛筆で

ペンは
使わない

チュルリョーニス展 内なる星図

会場 | 国立西洋美術館 企画展示室 B2F

会期 | 2026年3月28日(土) - 6月14日(日)

開館時間 | 9時30分～17時30分(金・土曜日は20時まで) ※入館は閉館の30分前まで

休館日 | 月曜日、5月7日(木)

※ただし、3月30日(月)、5月4日(月・祝)は開館

主催 | 国立西洋美術館、読売新聞社、国立M. K. チュルリョーニス美術館

同時開催 | 北斎 富嶽三十六景 井内コレクションより

会場：企画展示室 B3F 会期：2026年3月28日(土) - 6月14日(日) 主催：国立西洋美術館、読売新聞社

◎ジュニア・パスポートは、本展の鑑賞の手引きとして小学校高学年から中学生を対象に作られています。

◎国立西洋美術館と記載のある作品を除き、すべての作品はリトアニアのカウナスにある国立M. K. チュルリョーニス美術館に所蔵されています。M. K. Čiurlionis National Museum of Art, Kaunas, Lithuania.

ジュニアパスポート 執筆・編集：白濱恵里子（国立西洋美術館） デザイン：岩野直泰 制作・発行：国立西洋美術館 © 2026 国立西洋美術館

 国立西洋美術館
The National Museum of Western Art

展覧会について
もっと知りたい
人はコチラ▶



特設サイト

名前	来館日
	年 月 日

M. K. Čiurlionis : The Inner Constellation

JUNIOR PASSPORT

「チュルリョーニス展 内なる星図」 ジュニア・パスポート

たんぼぼの綿毛だよ。
いっしょに
見ていこう!



《おとぎ話Ⅱ [三連画「おとぎ話」より]》1907年 テンペラ/紙

「チュルリョーニス展 内なる星図」へようこそ!

この展覧会では、北ヨーロッパにあるリトアニアで生まれた芸術家、チュルリョーニスの作品を紹介します。

作品には、自然豊かな故郷の景色、愛する音楽、心の中のイメージや、ふしぎな物語が描かれています。

ジュニア・パスポートを手がかりに展覧会を見てみましょう!

リトアニアは どんな国？

リトアニアは、バルト海の美しい海岸といくつかの国に囲まれています。広さは北海道よりも少し小さいくらいです。

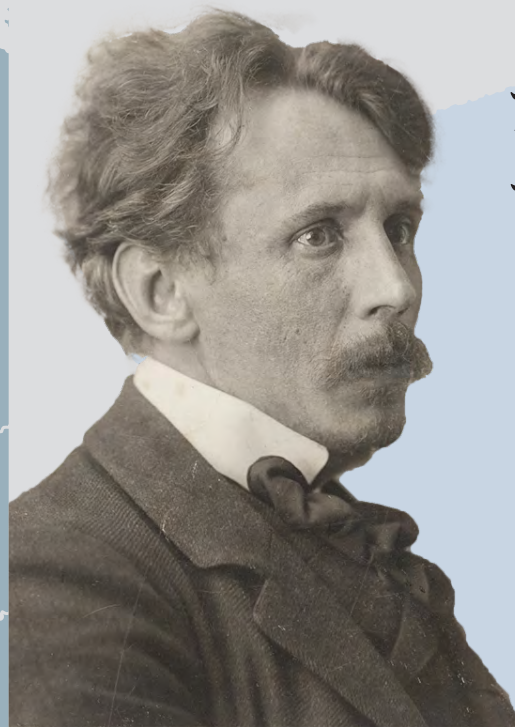


リトアニアの国章
(国を表すマーク)
提供：駐リトアニア共和国大使館

森林やたくさんの湖があることから、「森と湖の国」とも言われています。日本と同じように四季があり、自然を大切にす文化があります。



バルト海に面するエストニア、ラトビア、リトアニアは「バルト三国」とよばれます。



ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス

チュルリョーニス ってどんなひと？

ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス(1875-1911)は、教会でオルガンを弾く仕事をしていた父のそばで、小さなころから音楽に親んでいました。音楽学校で作曲を学び、音楽家として活躍するかわら、長年の夢だった絵の道もあきらめることなく、美術学校で絵も学びました。35才の短い人生を終えるまでに描いた作品は、いまでも多くの人に親しまれています。



《リトアニア民謡「走れ、刈り入れの列よ」のためのヴィネット》1909年 インク/紙

なだらかな土地に緑豊かな風景が広がっています。チュルリョーニスの故郷にある谷の風景です。この谷には、昔から伝わるふしぎな物語があるといひます。



三連画《ライガルダス》1907年 テンペラ/紙

その物語とは…

この谷にはかつて美しい町がありました。しかし、町が栄えてにぎやかになると人々は高慢になりました。神は怒り、町は地中深くにしまれられてしまいました。いまでも静かな夜に、かつての住民たちのさげ声が聞こえるといひます。



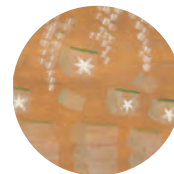
音楽と絵の
二刀流だね！



チュルリョーニスの絵には、にているものがいくつか登場します。これらが描かれている作品をさがしてみよう！



門



光



騎士



太陽

○《門（夢想）》（部分）1905/1906年 フッ素エッチング、モノタイプ/チャイナ紙 ○《冬Ⅷ【8点の運作より】》（部分）1907年 テンペラ/紙
○《プレリュード（騎士のプレリュード）》（部分）1909年 テンペラ/紙 ○《おとぎ話（城のおとぎ話）》（部分）1909年 テンペラ/厚紙

自然のリズム

リトアニアには、「春・夏・秋・冬」の四季があります。冬がきて一度は枯れてしまった草木も、次の季節がくるとまた元気に芽を出し、わたしたちに新しい景色を見せてくれます。

チュルリョーニスは、こうした季節のうつりかわりを楽しみ、生き生きと変化する自然の表情を描きました。



《春》1907年 テンペラ/紙

自由に書こう!



季節はいつごろだと思えますか?

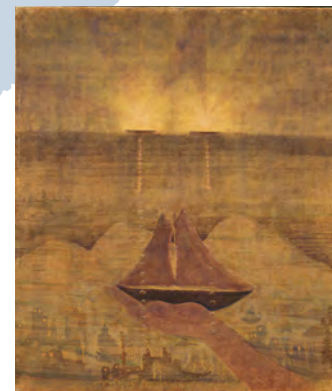
どんなところを見て、そう思いましたか?

音楽と絵

チュルリョーニスにとって、「音楽」と「絵」は、どちらも同じくらい大切なものでした。彼はおもしろいアイデアを思いつきます。それは、「音楽のルール」を使って絵を描くことでした。これらの絵には「ソナタ」という題名がついています。「ソナタ」は、音楽の種類のひとつです。絵をよく見ると、まるで音符がならんでいるように、色や形がリズムを作りだしているようです。



「アレグロ」
速く



「アンダンテ」
歩くような速さで



「フィナーレ」
ラストの盛り上がり

《第5ソナタ (海のソナタ)》1908年 テンペラ/紙

目で楽しむことができるコンサート
みたい!



この絵から、どんな音楽が聞こえそう?

チュルリョーニスは、同じ時代のヨーロッパの画家たちと同じように、日本の絵に関心を持っていました。「フィナーレ」は、江戸時代の絵師(画家)である葛飾北斎の作品を参考にしたといわれています。波の様子を見くらべてみましょう。
*地下3階で開催中の企画展「北斎 富嶽三十六景 井内コレクションより」も見てみよう!



葛飾北斎『富嶽三十六景』より「神奈川沖浪裏」1830-33年ごろ 横大判錦絵 井内コレクション(国立西洋美術館に寄託)

リトアニアにささげる物語

ある場所に、さまざまな形の十字架じゅうじかが立てられています。

リトアニアは、1795年から1918年まで、ロシア帝国という大きな国に支配されていました。そのころの人びとは、リトアニア語を話すことさえ禁じられていたといえます。

チュルリョーニスが暮らしていたころ、自分たちの国として独立したいと願う人びとの運動が強まりました。彼も明るい未来を夢見て、平和へのいのりと、自由への希望のシンボルとなった十字架を大切に描きました。



《リトアニアの墓地》1909年 テンペラ/厚紙

もしも、この絵の中に入ったら？

やすらかな気持ち シーン… ソクソク

風がヒューヒュー 星がキラキラ 走ってみたい

そのほか ()

夜空に北斗七星が光っているね。



*自然の中に神様が宿っていると信じられてきたリトアニアでは、十字架を「太陽」や「星」などでかざる伝統があります。

《ジェマイティヤ地方の道端の十字架》1909年 テンペラ/紙



《おとぎ話（王たちのおとぎ話）》1909年 テンペラ/カンヴァス



ふたりの王様は、手のひらの上の光るものを見つめています。

ドームのような光の中には、人びとが暮らす小さな街や国があるようにも見えます。

王様たちは何を話していると思いますか？
想像のお話を書きましょう。

